

令和3年度 第1回 砂川市総合戦略推進委員会

日 時 令和3年8月6日(金)

15時00分～

場 所 市役所2階大会議室

○委員

団体名	役職	氏名	備考
砂川商工会議所	会 頭	其田 勝則	
砂川市町内会連合会	副会長	岡本 昌昭	
砂川観光協会	会 長	石家 裕二	
砂川建設協会	会 長	三土 壽廣	
砂川青年会議所	理事長	久保 敬介	
新砂川農業協同組合	組合長	佐々木 孝一	
砂川金融協会	北洋銀行砂川支店 支店長	渋谷 浩樹	
砂川市校長会	会 長 (砂川小学校校長)	牧野 良信	
砂川地区連合会	会 長	竹内 伸子	欠席

○市役所

総務部長	熊 崎 一 弘
市民部長	河 原 希 之
保健福祉部長	安 田 貢
経済部長	中 村 一 久
建設部長	近 藤 恭 史
教育次長	峯 田 和 興
市立病院事務局長	朝 日 紀 博

○事務局

総務部政策調整課長	井 上 守
総務部政策調整課副審議監	玉 川 晴 久
総務部政策調整課企画調整係主任	藤 田 美 穂

1 開 会

【政策調整課長】

本日は、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。
ただいまから、令和3年度第1回砂川市総合戦略推進委員会を開催させていただきます。

2 委嘱書交付

【政策調整課長】

本委員会の構成団体のうち、4月1日付けで砂川市校長会が奈良会長から牧野会長へ、7月1日付けで砂川金融協会が北市会長から渋谷会長へ代表者の変更がありました。

本日は本年度初めての会議ですので、善岡市長から委嘱書を交付させていただきます。市長、お願いいたします。

—委嘱書交付—

【政策調整課長】

開催にあたりまして、善岡市長よりご挨拶を申し上げます。

3 市長挨拶

【善岡市長】

皆さん大変お忙しい中、またお暑い中、お集まりをいただきまして、心から感謝を申し上げます。砂川市総合戦略推進委員会の挨拶ということですが、堅苦しい挨拶はやめて、お手元の資料に北海道新聞のコピーをとったものがございます。つい最近、総務省の人口動態調査ということで、住民票の異動の数字を総務省がランキングとして発表しているものの中から、この管内24市町の状況を抜粋して北海道新聞が載せたものになります。

記事の中で①と書いてあるのは、全国の中で最も人口が少なかった市はどこでしょうということ、ご承知の通り歌志内、夕張、三笠、それから赤平と4市全て空知管内にあるということですが、砂川市は一体どのランクにあるかというと、人口が16,505人ということで、全国で人口の少ない市としては13位となっています。ただ1つ言えるのは、もともと砂川市は3万4千人で市になりました。要件は5万人ですが、当時、東洋高压という大企業がございまして、そこの社員がどんどん増えていく状況の中、特例で市になった時点で全国でも小さい市であり、それが約半分ちょっとくらいになった。ちょうど1万5千人くらい東圧関係の職員や関係業種の方がおられましたので、極端にその抜けた分だけ数字が落ちているという状況でありまして、もともと人口は少なかったという状況にあります。ある意味、その中で健闘しているというのが実態です。人口も面積もすごく少ないところに、

行政面積が78.69km²とすごく小さいところで、12号線にはりついているというよう
な状況でございますが、それから言うと、もともと人口は少なかったというのが現
状でございます。

それから2番目の老年人口でございますが、65歳以上の割合ということで、これ
も旧産炭地が続くのですが、空知管内24市町の平均は40%でございますして、道平均
は32.12%。ただ、道の平均は札幌市が人口のほとんどを占めているので、そこが
平均を作ってしまうために32.12%になっています。それでは、砂川市はどれくら
いにあるのかというと、下の「砂川市抜粋」で、老年人口割合は39.28%というこ
とで、管内24市町の平均より少し良いくらいのところにいます。一般的には大体こ
のくらいのところにあって、札幌なりその近郊のところは平均より低く標準となっ
ていて、中心部から外れている過疎都市についてはほとんどが40%くらいになっ
ているという状況があります。

それから、3番目が生産年齢人口。15歳から64歳までの方の割合がどうなってい
るのかということですが、ここでも人口がほとんど流出してしまった夕張や旧産炭
地がどんどん入ってきています。空知管内24市町で1番多かったのは南幌町。これ
は南幌に家を建てて札幌へ通っている人が一時多かったのがこうなっております
して、隣の滝川市で54.68%、岩見沢市で53.7%。砂川市はと言いますと、51.84%と
いうことで50%は超えています。これは健闘している部類に入る方なのでしょう
かね。基準はよくわかりませんが、こういう状況となっています。

4番目の14歳以下の年少人口は、新十津川が11.21%ということで、全道平均が
10.77%ですから、新十津川だけが上回っておりますして、良い方でいけば滝川市が
10.17%、岩見沢市が10%ということで、10%以上となっているのは3か所しか
ないと。砂川市は8.88%で、どこと比べて良い、悪いはないですが、今の1、2、3、
4番の中身を比較すると、弱点と思われるのは4番目の14歳以下の子ども達の割合
が少ないということが、ある程度数字の中から読み取れてきます。

それは前からわかっていたもので、砂川市には市立病院に看護師が600人ほどお
りまして、20代、30代の女性の比率が空知で1番高いのです。前に、消滅可能性都
市というのが出た時に、24市町で消滅の可能性が1番低いのが砂川市だったのです
が、これは子どもを産む年代の女性の割合の数字で見えていくとそうなりますよと
いうことですので、婚活事業をやって少し結婚してもらえれば。市立病院の看護師は
たくさんいるのですが、砂川市の現状からいくと男の人の数が少ないものだから、
なかなかマッチングしない。婚活は今民間の方にやってもらっており、大変苦勞し
ていますがけれども、この年代をなんとか増やすようなことになれば、もう少し数
字が良くなってくる。

砂川市の場合、公務員の人口に占める割合が大きすぎて、市役所と病院で1,300
人程度いますので、人口の減少率が他よりはまだ健闘しているというのは、そうい
う理由も結構影響しているのかなと。空知管内で就職率が1番高いのが砂川市とい
うのは、おそらく人口割合の中で公務員の割合が大きいために全体の割合を押し上

げているんだろうという風に思っていますけれども、その砂川市の弱点をどう考えながら、それを克服するか。いわゆる国策でなければ、人口減少に歯止めをかけるということ、市町村でやるにはなかなか無理があります。ただ、それをどれくらい遅らせながら、そのまちの規模、特性に合ったまちを作りながら生き残っていくのかということを考えるのが1番大事なことなんだろう。その中で色々検討してもらいながら、この指標も用いながら、砂川市の弱点を補いながら、持続可能をどのようにやっていったら良いのだろうと。

砂川市も合併すれば人口が2万、3万になる可能性はあったのですが、いわゆる旧産炭地が抱えている財政問題で一緒になれないんです。人口を取るか、財政力を取るかという苦渋の選択でございまして、周りの産炭地を抱えて砂川市がそれでやっていけるかどうかという、数字的にはすごく厳しい数字が出ました。中空知の2市3町で合併協議もしましたが、その当時の人口が3万ちょっとなのですが、そちらを選択すると財政的に立ち行かなくなるということで、砂川市は結局単独の道を、財政の方を取って、いけるとこまでいきましょうかという方を選択した訳でございましてけれども、総務省の方ではまたいずれ合併の制度を考える時期が来るんだろうとは思っていますが、それまでの間に、砂川市のまちの特性である2次医療圏の病院を中心としながらどんなまちづくりをやっていって、どこが弱点かということ、数字で判断しながら、そこに効果的に対策を打っていくことが必要なんだろうという風に思っております。委員の皆様のお力添えをご期待申し上げまして、挨拶といたします。

【政策調整課長】

ありがとうございました。市長におかれましては、公務のため、これにて退席いたします。

—市長退出—

【政策調整課長】

それでは、会議に入りたいと思いますが、会議につきましては、其田委員長のお手元で進行をお願いしたいと思います。

其田委員長におかれましては、正面の委員長席へご移動願います。併せまして、協議事項に入る前に、委員長よりご挨拶を頂戴したいと思います。

よろしく願いいたします。

4 委員長挨拶

【委員長】

それでは、会議に入る前に一言ご挨拶申し上げます。暑い中、皆様大変ご苦労様でございます。昨今は東京五輪、そしてコロナの感染拡大で、それぞれ皆さん毎日

一喜一憂しているのではないかなと思いますけれども、そういう社会情勢の中、コロナも心配ですがそこはワクチン接種で乗り切って、早く普通の日常に戻るように、皆さんとともに期待をしたいと思います。

さて、総合戦略の委員会ですけれども、少し思い出しましょう。第1期の総合戦略は平成27年に策定しまして、当初は5年ワnkールの計画でしたけれども、ちょうど5年目にあたる時に、今度は第7期総合計画と総合戦略がぶつかりまして、第7期の総合計画の方を進めて、総合戦略の方は1年先送りして、5年のところを6年というかたちで、1期目を経過したところでございます。その1期目が今年の3月で期限を迎えましたので、この6年間の総括といいますか、そういったことがまとまりましたので、皆様にお諮り申し上げて検討したいなということでお集まりいただいております。何分、暑くて会議の方も大変だと思いますが、お付き合いのほどよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

5 協議事項

(1) 砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

【委員長】

それでは、5番目の協議事項、(1) 砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について、事務局より一括で説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは事務局よりご説明いたします。まず、資料につきましては、事前に配付させていただいた資料1と資料2に基づいてご説明したいと思います。本日検証いただく内容につきましては、第1期総合戦略の計画期間が令和2年度をもって満了を迎えましたので、基本目標の数値目標や各事業のKPIに関して、令和2年度の実績及び平成27年度から令和2年度までの6年間の総合評価を取りまとめたものになります。

第2期総合戦略は、本年4月よりスタートしておりますが、第1期総合戦略で目標に叶わなかった部分、また、残された課題などにつきましては、第2期総合戦略の中で、引き続き対策を講じていくこととなりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、概要からご説明いたします。資料1をご覧ください。この資料1につきましては、もう1つ用意をさせていただいた資料2の集計表を基に、各基本目標の数値目標と各事業のKPIについて、最終的な実績値と達成度を集約し、一覧にまとめたものです。総括表のようなものになります。

この資料1では、6年間の成果として、基本目標の数値目標と施策・事業のKPIに関して、それぞれ目標値に対して実績値がどうであったか、どの程度目標が達成されたかについてご報告したいと思います。

書面上段の四角囲いの部分で、達成度指標として達成度の欄に表記している、A

～Dの説明をしております。達成度とは、目標値に対する実績値の割合となっております。この達成度に応じてA～Dまでの4段階に分け評価を行っており、達成したものはA評価、未達成のものは、記載の通り、達成度合いに応じてB～Dの評価に分類しております。

それでは、上の項目から順にご説明いたします。項目1番の「基本目標の目標値達成度」についてになります。

まず、基本目標1であります。ここは雇用や新規創業など、主に経済の活性化にかかる分野です。

1つ目の数値目標、「創業支援事業に基づく新規創業件数」は、目標値は6年間合計で7件でありましたが、実績値は15件となり、目標値の2倍になるなど大きく目標値を上回っているところでもあります。一方、2つ目の数値目標、「新たな雇用者数」については、目標値は令和2年に40人でありましたが、実績値は14人となり、目標の4割程度にとどまるなど大きく目標値を下回ったところでもあります。

次に、基本目標2であります。ここは移住の推進や観光振興により、砂川市へ訪れる人の動きをより活発にしようという分野になります。

1つ目の数値目標、「砂川市の転出超過数」は、基準値として平成26年度は、年間205人の転出超過状況であったものを、目標値として令和2年に150人まで減らそうとしておりましたが、ここ数年では、超過数が2桁台になる年もあるなど、実績値は140人と目標を上回ったところでもあります。6年間の各年度の実績値については、資料2の5ページをご覧くださいなのですが、5ページの1番上、1行目に掲載がございます。若干、年度によって増減がありますが、6年間は目標値とした150人を下回る状況で推移してきたことがわかります。

資料1に戻りまして、基本目標2の2つ目の数値目標、「観光入込客数」については、目標値は令和2年に134万2千人でありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実績値は87万9千人と、前年度から約半減するなど、目標値を大きく下回っているところでもあります。

次に、基本目標3であります。ここは結婚の推進や出産、子育てをしやすい環境を整備することで、結婚や子育てを推進しようとする分野です。

1つ目の数値目標、「婚姻届出数」は、目標値は6年間合計で480件でありましたが、実績値は367件にとどまっているところでもあります。また、2つ目の数値目標、「合計特殊出生率」についても、目標値は令和2年に1.54程度としておりましたが、実績値は1.17にとどまっているところでもあります。

次に、基本目標4であります。ここは住環境や医療環境の整備、高齢者の在宅支援等を通し、また、地域間の連携を進めることで、住み続けられる地域づくりを進めるという分野です。

1つ目の数値目標、「民間住宅助成金交付件数」は、目標値は住宅の購入や改修等の助成金を6年間合計で462件交付するとしておりましたが、実績値は677件となり、大きく目標を上回ったところでもあります。一方、2つ目の数値目標、「移住定

住促進住宅入居率」については、主に子育て世帯の市外からの転入を促すために、空知太に整備した1棟4戸の移住定住促進住宅であります。目標値は令和2年に入居率100%としておりましたが、実績値は4戸中2戸の入居であり、入居率は50%にとどまっているところであります。

以上、4つの基本目標について、合計で8つの数値目標の達成度を整理しますと、8つの数値目標のうち、目標を達成したAについては「創業支援事業に基づく新規創業件数」など3つ、また、未達成だったものは、こちらはCとDになりますが、「新たな雇用者数」、「観光入込客数」など、5つとなったところであります。

続きまして、項目2番目の「施策・事業のKPI達成度」の表をご覧ください。こちらは、基本目標1～4を構成している施策・事業の評価になります。個別事業ごとの評価については、この後、資料2によりまして、主なものをご説明させていただきますが、まず、この表により、施策・事業全体ではどの程度KPIの目標値が達成されているのかについて、ご報告したいと思います。

表の1番下の行、合計欄をご覧くださいなのですが、事業数については、全体で51事業ございます。また、1事業に対してKPIを複数設定している事業もありますので、設定したKPIの数は、合計で58個になっております。

その58個のうち、達成度Aが29個、半数が目標値を達成しているのに対し、達成度D、達成度が50%以下のものになりますが、こちらが9個、率にして15.5%あったところであります。また、1～4の基本目標ごとで見ますと、達成度Aの割合が高いのは、基本目標3の「子育て関連」であるのに対し、達成度Aの割合が低いのは、基本目標4の「雇用関連」になっております。

次に、「施策・事業のKPI達成度」について、基本目標ごとに、達成度の良かった事業、悪かった事業について、主な事業をご説明したいと思います。資料2、A3の表をご覧ください。

まず、この表の見方の確認をしたいのですが、この資料2の表は2枚で1組となります。1ページと2ページを見比べるとわかるのですが、表の中央より左部分に「達成度」という欄があると思います。「達成度」から左側は、1枚目と2枚目も同じ内容の記載となっております。「達成度」の右側は、1枚目と2枚目とで変わっておりますので、ご確認願います。

<基本目標1>

それでは、主な事業について説明いたします。まず、1ページから4ページになりますが、基本目標1「安定した雇用を創出する」になります。ここでは、農業や商工業の振興、人材の確保など経済の活性化にかかる事業を掲載しております。2ページをご覧ください

特に実績値が高かったものとしては、1-3の「商店街空き店舗対策事業」については、目標値を6年間合計で6件として空き店舗の解消を目指しておりましたが、19件の解消につながったところであります。6年間の総合評価は右側になりますが、

創業支援等事業計画に基づき実施している、商工会議所等関係機関との連携による相談業務等により、補助金申請のサポートなど、よりスムーズで細やかな支援体制が整備されたことが実績値の増に繋がっているところでもあります。

次にその下、「創業支援事業」では、目標値として6年間合計で7件の「創業支援事業に基づく新規創業」を目指しておりましたが、15件の新規創業につながったところでもあります。6年間の総合評価については、創業支援等事業計画に基づく創業セミナーへの参加などを機に、創業希望者に対し関係機関と連携しながら継続的に支援できる体制も徐々に整うことで、安定的な創業者の創出に繋がっております。

同じく「地域ブランド構築事業」では、設定した2つの指標が、共に目標値を大きく上回っているところでもあります。1つ目の「チームを構成する事業者数」について、令和2年で5事業者を目標としておりましたが、30事業者となったところでもあります。また、2つ目の「地域ブランドの商品数」について、令和2年で10品を目標としておりましたが、26品となったところでもあります。

一方、実績値が低かったものとしては、2-2の「看護学生修学資金貸与事業」ではD評価になっております。指標として設定した「砂川市立病院への就業者数」について、令和2年度で32人を目標としておりましたが、近年の市立病院退職者の減少に伴い、採用者も年々減少し、14人ととどまっているところでもあります。

次に、4ページになりますが、2-4の「雇用創出事業」がD評価になっております。指標として設定した「施設新設等を行なった企業の新規雇用者数」について、6年間合計で30人を目標としておりましたが、1人ととどまったところです。6年間の総合評価としては、企業の新設等は定期的にあったものの、市内居住者の新規雇用は少ない状況であったということです。今後は、雇用人数の増加と共に、市内居住者が雇用されるよう働きかけかけるというところでもあります。

<基本目標2>

次に、5ページ、6ページの基本目標2「新しいひとの流れをつくる」になります。

ここでは、移住の推進や観光振興などの事業を掲載しております。6ページをご覧ください。

特に実績値が高かったものとしては、2-1の「情報発信による観光振興事業」では、指標として設定した「ホームページアクセス件数」について、目標値、令和2年で354,000件に対し、実績値が529,897件と、目標値を大きく上回っているところでもあります。6年間の総合評価としては、アクセス件数は、イベントや災害、事件事故などの情報があった際に多くアクセスされており、都度、情報の更新を行ってきたこと、また、近年のLINEの活用によるものであります。

次に「地域資源を核とした情報発信による観光客誘致事業」では、指標として設定した「ポータルサイト年間アクセス数」について、目標値、令和2年で19,500件に対し、実績値が132,477件と、目標値を大きく上回っているところでもあります。6

年間の総合評価としては、観光協会ホームページのリニューアル以降、砂川市の効果的な魅力の発信によって年々閲覧件数が増加しているものであります。

次に「ふるさと名物『すながわスイーツ』を活用した観光振興事業」では、指標として設定した4つのうち、「ふるさと名物返礼品『すながわスイーツ』の数」について、目標値が6年間合計で6,200件に対し、実績値が11,503件と、目標値を大きく上回っているところであります。

一方、実績値が低かったものとしては、この同じ「ふるさと名物」の事業で設定した「スイートロード協議会主催事業参加人数」と「DMO加盟団体数」がD評価になっております。「スイートロード協議会主催事業参加人数」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、協議会が主催する事業がほぼ中止となったため、大幅に減少しております。また、「DMO加盟団体数」については、DMO設立は困難と判断されたことから、令和元年度をもって協議会が解散となったものであります。

<基本目標3>

続きまして7ページから10ページの基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」になります。ここでは、結婚支援の推進や、妊娠、出産から子育てまでの切れ目のない支援の事業について掲載しております。8ページをご覧ください。

特に実績値が高かったものとしては、2-1の「陣痛タクシー事業」です。こちらは指標として設定した「陣痛タクシー利用登録率」について、目標値、令和2年で30%に対し、実績値が63.6%と、目標の約2倍の登録があったところであります。6年間の総合評価としては、平成30年度からは利用料の全額助成を行い、妊婦の安心と活用しやすいサービスになっているものであります。

次に10ページをご覧ください。2-3の「乳児おむつ無料クーポン券支給事業」では、指標として設定した「無料クーポン券利用率」について、目標値、令和2年で60%に対し、実績値が86.6%と目標値を大きく上回っているところです。

一方、実績値が低かったものとしては、「ふしぎの森利用料無料クーポン券支給事業」では、指標として設定した「無料クーポン券利用率」がD評価になっております。6年間の総合評価として、平成30年度より確実に利用が伸びてきたものの、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりクーポン券利用率も減少となったものであります。

<基本目標4>

続きまして11ページから14ページ、基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」になります。12ページをご覧ください。

特に実績値が高かったものとしては、1-1の「砂川市地域包括ケアネットワーク

事業」では、指標として設定した「共有した情報へのアクセス数」について、目標値、6年間合計で51,000件に対し、実績値が92,230件と、目標値を大きく上回っているところでもあります。

次に、2-1の「永く住まいる住宅改修助成事業」では、指標として設定した「永く住まいる住宅改修助成金交付件数」について、目標値、6年間合計で252件に対し、実績値が398件と、目標値を大きく上回ったところでもあります。

同じくその下の「住み替え支援事業」では、指標として設定した「住情報の提供延件数」について、目標値、6年間合計で25件に対し、実績値が99件と、目標値を大きく上回っているところでもあります。

主な事業の紹介は以上であります。この資料1の評価のとりまとめに関して、説明を加えさせていただきますと、「6年間の総合評価」の内容と「今後の方向性」の部分について、評価の内容が、問題・課題・対策に触れているのに対し、「現状のまま継続」となっているものがございます。今後の方向性が、必ずしも総合評価の内容と一致しておりませんが、事業担当課では課題等に対する対応や対策は取っているものでございます。今後の方向性として、明確に書き込めていない部分もあるということで、このような記載となっていることをご承知おきいただきたいと思います。説明は以上です。

【委員長】

ありがとうございます。長い説明ではありましたが、6年間の指標の評価ということで発表がございました。皆様の方から何かこの点について聞いておきたい点とか、ご質問があれば承りますが、いかがでしょうか。

【委員】

1 ページの基本目標 1、安定した雇用を創出するの 1 番上、「創業支援事業に基づく新規創業件数」が A の評価である一方、「新たな雇用者数」の評価はいきなり D となっていますが、創業の割には雇用者数が極端に低いということで、そのあたりの内容がわかりましたらお願いいたします。

【事務局】

まず 1 ページ目、1 行目の「創業支援事業に基づく新規創業件数」が 15 件で達成度 A というところですが、こちらについては商工サイドでやっている創業支援計画に基づいて創業した方が 15 件いるのに対し、「新たな雇用者数」の令和 2 年は 14 件となっています。この件数を計算するにあたって、右側の所見の部分を見ていただきたいのですが、14 件の内訳は、3 つの事業によって雇用が増えた件数をここには入れています。ですので、この 14 件については上の 15 件が入っているものではなく、ここに書かれている介護人材育成支援事業により就業した人が 0 人だった、もう 1

つが雇用創出事業ということで先ほど事業の中でも説明しましたが、企業振興促進補助金により雇用につながった人が0人だったということと、あとは看護学生の就学支援対応の事業で、先ほども報告しましたが、14人。以上の合計が14人ということで、その違いでございます。

【委員】

そうしますと、新規創業件数イコール新たな雇用者数にはならないということでしょうか。よろしいですね。わかりました。

【委員長】

他にございませんか。

【委員】

KPIの目標値について、6年間で設定している場合と令和2年時点で設定している場合の2つありますが、これはなぜかなと思ったのが1点と、基本目標2の観光入込客数は、令和2年はやはりコロナの影響があるので、KPI達成には難しいのかなと。その前の令和元年までだったら結構伸びているのに対し急に下がっていて、異例の時の達成度なので、この辺りは検証に当たるのかなと思っていたのですが、いかがかなということでお聞きしたいです。

【事務局】

まず指標の設定ですが、総合計画でも実施計画などで指標を設定しているのですが、累計でおさえた方がわかりやすいものについては6年間の合計を指標にしています。一方で、累計よりその年にどれくらいなんだというのがわかった方が、比較する上でわかりやすいものについては、最終年にどれくらいというカタチで設定しています。

それと、観光入込客数については、たしかに前年は162万5千人、今回は87万9千人ということで、コロナの影響で落ちています。観光客については平成27年から徐々に伸びてきておりました、当然コロナがなければ令和2年度は162万5千人を上回ったであろうというところはあるのですが、コロナ禍で減ったというのも、この評価の中で、仕方ないということではないですが、そういうことを皆さんがご承知いただいた中で取りまとめられれば良いのかなと思います。実際に数値としてはこういう数値が出ていますので実績値はこうなりますが、そういうことも含めて評価いただければ良いのかなと思います。

【委員長】

それぞれの事業の性格というか、6年で見えた方が良いのか、単年度で見えた方が良いのか。観光の入込は令和2年度1年で見ようという計画ですから、令和2年度の

数字がストレートに入っていますが、皆さんご存じのようにコロナの関係でハイウェイオアシスは全然人がいませんでしたからね。そういう事実関係は容認できると思うのですが、ただ、当初の目標設定が令和2年度ということで進んでいたものから、こういう表記の仕方にしたんだろうと思います。早く復帰してほしいですね。

他に皆さんからございませんか。

【委員】

今の観光入込客数について、基本的なことで申し訳ないのですが、算出するにあたってどのような方法で数字を出されているのかお聞きしたいです。

【経済部長】

詳細については手元に資料がないためわからない部分もありますが、基準となる施設にあらかじめお願いをしておりまして、定期的に観光客の状況を報告していただき、それを道に報告するというようなかたちで実績を出しております。そのポイント、ポイントの施設については、今手元に資料がないのでわかりませんが、大きな部分としては、ハイウェイオアシス館の入込客が砂川の観光客の多くを占めるものと考えております。

【委員】

ご回答いただきましたけれども、ハイウェイオアシス館と北海道子どもの国が主だということでもありますよね。そうしますと、市内に観光客がいらした場合は、単独ではこの数字はなかなか把握できないということでしょうか。例えば、スイートロードのお菓子屋さんとか。

【経済部長】

個店、個店の市外から来てお買い物されているお客様の具体的な数字というのは、おそらく担当課でもおさえてはいないと思います。

【委員】

わかりました。たしかに個々のお店の入込客を把握するのは大変難しいと思います。

【委員】

このAやBなどの評価というのは、目標値を定めてその達成度によるということ、例えば商店街の空き店舗対策、目標6件のところ19件ということで良いことなのですが、ただ、空き店舗になった数もこれだけありますとか、マイナス面もやはりこの中に参考資料として今後入れていかなければ。総合戦略的、将来的に、良

い面ばかり見ていないで悪い面も載せていかないと対策を練ることが出来ないのではないかと。総合評価の中にも、こうなりますがこういう面があって今後これに力を入れていかなければならないとか、こういうマイナス面に力を入れていかなければならないとかということ、総合的に判断していかなければ、資料がせっかくまとまって、A、B、C、Dと評価をしても、それが今後なかなか反映されていないのではないかと。満足して終わるのではないかとという気がしますので、そういう面も、国の方針でこのような形が多いでしょうが、別添で、例えば廃業した店舗はどれくらいあるとか、空き店舗もあります。空き地がどれくらいあるとか、そういう面も全て把握しながら、農業の担い手もそうですし、商業の担い手もそうなんですけれども、やはり廃業する方、やめる方、それから後継者の問題、色んなことがあると思うんです。その辺りなど総合的なものが今後の戦略には必要でないかなと。今まではこれで良かったとしても、やはり将来的にはそういう面が必要でないかなという風に思います。

【委員長】

いわゆるバックデータとして、経済部で把握している部分が結構あると思うので、それを整理して今後反映できるようにということだと思います。経済部長、いかがですか。

【経済部長】

今回の総合戦略の部分で象徴的にと言いますか、数値目標を出すということと別に、今委員さんがおっしゃったように、空き店舗が埋まった数もプラスの要因としてありますが、廃業して空き店舗になってしまった数がどれだけあるか、トータルで砂川市の商工業の状況がどうなのかというのは現場でまた別途おさえているものでございまして、それに対する対策というのは総合戦略も含めて全市的に考えていきたいと考えております。

【委員長】

他にございませんか。

－発言なし－

【委員長】

6年間という長い期間のまとめということで、それがここで終わった訳ではなくて、第2期が始まっておりますので、そちらの方にも反映して、第2期から第3期にいく時にはまた色んな考え方が出てくるのかなとは思っています。とりあえず、1期目の6年間の総括ということで、この数値でまとめさせていただきましたが、これで1期目のまとめの内容としてよろしいですか。

【委員長】

それでは、第1期の総合戦略の実績として委員の承認をいただきましたので、よろしくお願ひいたします。

5 協議事項

(2) その他

【委員長】

協議事項(2)その他ということで、事務局からお話があればお願ひいたします。

【政策調整課長】

その他ということで、私の方からご説明したいことがありまして、お時間をいただきたいと思ひます。久し振りの総合戦略の推進委員会でございましたので、色々と資料を用意したのですが、時間も相当経過してございますので、手短にご説明したいと思ひます。

総合戦略に関わる最近の流れといたしまして、中でもDXと言って、デジタル・トランスフォーメーションというところも地方自治体で何かしなければならぬというような動きがございます。本日若干資料を用意しましたので、一通りご説明したいと思ひます。

最初に「第2期『まち・ひと・しごと創生総合戦略』2020改訂版」をお手元に配付しておりますが、感染症の影響を踏まえた今後の地方創生についてどのようなかたちになっていくかというところで改訂がございます。資料の1ページ、第2期の総合戦略については、令和2年度を開始としてございますので、令和元年度に戦略を策定してございます。令和2年7月には基本方針2020といたしまして、総合的な方針が定められてございます。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた新たな地方創生の実現に向けた今後の政策について謳ってございましたが、その後新型コロナウイルス感染症も終息しない、国民の意識・行動変容もありまして、令和2年12月に時代の変化を捉えた新しい地方創生の実現を目指し、総合戦略を途中で改訂したところございます。

資料2ページに改訂の概要をまとめてございます。感染症による様々な影響として、地域経済・生活への影響のほか、国民の意識・行動変容として、テレワークの普及、地方への関心の高まり、さらには地方への人の流れ、企業の意識・行動変容が求められてございます。これらにつきましては、3密の回避や各団体の良好事例の共有などにより、感染症が拡大しない地域づくりに取り組むことが重要とされたところございます。その上でこれまでの地方創生の取り組みを着実にございますとともに、感染症の影響を踏まえ、6つ新たな施策がございますけれども、具体的には5ページ以降に資料を添付してございます。デジタル・トランスフォーメーション(DX)、脱

炭素社会（グリーン社会）、地方創生テレワーク、魅力ある地方大学の創出、オンライン関係人口、企業版ふるさと納税（人材派遣型）、スーパーシティ構想ということで、新たな地方創生の取り組みを、国の全省庁と連携を取りながら総合的に推進するとまとめられているところでもあります。

3 ページ目になりますが、大きな流れとしての新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の地方創生の取り組みの方向性としまして、感染症による意識・行動変容を踏まえた、ひと・しごとの流れの創出、各地域の特色を踏まえた自主的・主体的な取り組みの推進、これらについて、国としては、各地域の自主的・主体的な取り組みを基本としつつ、地域のみでは対応しきれない面について様々な観点から支援をするとされたところでもあります。

4 ページ目は総合戦略の概要について体系的にまとめたものでありますが、左から、目指すべき将来像、基本目標、主な施策の方向性、最後に横断的な目標ということで、一番右側に表記してありますが、第2期からこの横断的な目標は掲げられたものであります。また、このフローの中で、赤字で表現されている箇所が、コロナ禍による行動変容等を考慮して、昨年12月に改訂として追加された部分であります。砂川市の総合戦略につきましても、2番目の地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくるの中では、地方創生テレワークの推進であるとか、地方とのつながりの構築では、オンライン関係人口、新たな関係人口の創出・拡大というところで、それぞれ取り組みを進めたところでもあります。

次に資料5 ページになりますが、ここからがそれぞれの個別の施策になります。デジタル・トランスフォーメーションの推進と脱炭素社会の実現に向けた取り組みでありまして、地域におけるSociety5.0の実現に向け、医療、福祉、教育など社会全体の未来技術の実装を支援することを通じて、デジタル・トランスフォーメーションを強力に推進する。さらに、環境と成長の好循環及び脱炭素社会の実現に向けた取り組みを強力に推進するとなっているものであります。ここで4つ挙げているのが、Society5.0の実現に向けたデジタル・トランスフォーメーションの推進。こういったところで取り組みを進めておりまして、脱炭素社会の実現に向けた取り組みについては、地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくりにより、それらの社会を実現するとなっております。

6 ページからは、先ほど申し上げました地方創生テレワークの推進や、7 ページの魅力ある地方大学の実現と地域産業の創出・振興、8 ページには関係人口の創出・拡大、9 ページには企業版ふるさと納税（人材派遣型）、10 ページにはスーパーシティ構想の推進というようにまとめられております。

先ほど言いましたSociety5.0とデジタル・トランスフォーメーションというのがそれぞれ出てくるのですが、それは何なのかということで別添資料を作成しております。3枚組の資料、「Society5.0とは」というところで、Society5.0の概念としましては、サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する。その社会を達成するということな

のですが、Society1.0、2.0、3.0というところで、狩猟、農耕、工業、ついこの間まで言っていたSociety4.0が情報化社会だったのですが、最近についてはSociety5.0と進展しているところであります。ページをめくっていただき、Society5.0で実現する社会は何なのかというところで、大きく4つに区分してありますが、IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値が生まれる社会ですとか、少子高齢化、地方の過疎化などの課題をイノベーションにより克服する社会、ロボットや自動運転車などの支援により、人の可能性が広がる社会、最後にAIにより多くの情報を分析するなど面倒な作業から解放される社会。そういったところで位置付けされております。3枚目にはSociety4.0と5.0の違いについて表現されていますが、これまでの4.0、クラウドを利用した情報社会が、それにビッグデータを解析するAIや人工知能を活用した社会を目指すというところが新たに加わったところであります。

それから、1枚ものの資料でデジタルイノベーションとデジタル・トランスフォーメーションについてとありますが、デジタルイノベーションとはデジタル化なのですが、これまでの社会ということで、デジタル・テクノロジーを使って既存製品の付加価値を高める、また、業務の効率化を図るといったものから、デジタル・トランスフォーメーションと謳いまして、デジタル・テクノロジーを使って経営や事業の在り方を変革する、生活や働き方を変革する、進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものに変革するというのが、デジタル・トランスフォーメーションと位置付けられています。

ここまでが総合戦略の2020までのおさらいになります。そこでもう1つ、「まち・ひと・しごと創生基本方針2021について」ということで、これが最近6月に公表された基本方針になりますが、若干触れていきたいと思えます。

1ページ目、基本方針2021の考え方でありますが、先ほどからご説明させていただいておりますが、新型コロナウイルス感染症は地域経済や住民生活においてもなお大きな影響を及ぼしている一方で、地方への移住に関する関心の高まり、テレワークを機に人の流れに変化の兆しがみられるなど、国民の意識・行動が変化していると。こうした変化を踏まえ、地域の将来を我が事として捉え、地域が自らの特色や状況を踏まえて自主的・主体的に取り組めるようになる、都会から地方への新たなひとやしごとの流れを生み出すことを目指す。これにより、訪れたい・住み続けたいと思えるような魅力的な地域を実現していくとしております。この実現に向け、感染症が拡大しない地域づくりを含め、総合戦略に掲げた政策体系、4つの基本目標及び2つの横断的目標に基づいて取り組みを進めるにあたり、新たに3つの視点、ヒューマン、デジタル、グリーンを重点に据え、地方創生の取り組みのバージョンアップを図るとされております。

このうち、デジタルに関して4ページに記載がありますが、デジタル視点からの具体的な取り組みとしまして、デジタル・トランスフォーメーションの推進を通じて、地域の課題解決や魅力向上につなげるとしたところであります。

この資料はここまでとしまして、次に白黒の3枚組の資料がございますが、これはデジタルに関わるものを抽出してまとめております。地域の課題解決や魅力の向上に資する地方におけるデジタル・トランスフォーメーションに向けた施策、これがまち・ひと・しごと創生基本方針2021から抜粋したものになります。

大きく分けまして、1ページ目には地域におけるデジタル・トランスフォーメーションをめぐる現状、2ページ目には地域におけるデジタル・トランスフォーメーションの必要性・効果、3ページ目には具体的な取り組みの方向性をまとめております。

まず、1ページ目の地域におけるデジタル・トランスフォーメーションをめぐる現状であります。多くの地域において、交通弱者の増加、医療・介護サービスの担い手の不足、地域の小売・生活関連サービスの衰退、インフラの維持管理の負担増など、地方創生に向けた様々な社会課題が山積しておりますが、今般の感染症の拡大により様々な分野でデジタル化の遅れが顕著化したところでもあります。これにより、地方公共団体におけるデジタル技術の活用は、デジタル・トランスフォーメーションの推進に不可欠であることが、一層浮き彫りとなったところでもあります。一方で、内閣府の調査によりますと、ほとんどの自治体で関心があるということですが、取り組みを推進している自治体は全体の36%となっております。関心があると回答した自治体の実施率が36%ですので、相当低いのかなと思っております。それから、専門部署を置いている自治体については、設置率は8%。また、デジタル技術を活用した事業を通じて地域課題を解決できるデジタル人材がもともといないという現状もあります。

次に2ページ目、地域におけるデジタル・トランスフォーメーションの必要性・効果については、これまでも言われておりますが、デジタル化の推進により様々な行政サービスが効率化・高速化されるとされており、交通アクセスなどの地理的・時間的な制約要因が解消され、これによりどこの地域でも同様のサービスを享受できるとされております。また、IoT化や企業改革が進展することで、企業の生産性の向上、新商品・新サービスによる需要が創出され、結果として実質GDPの押し上げ効果があると試算されております。さらに、デジタル技術を活用した各地域の知識・ノウハウが共有されることで、新たな価値が創出され、他の地域への波及効果が期待されるものであります。例として、下の囲みであります。地域の多様な主体のオンライン共有による新型コロナウイルス感染症防止サイトが構築された、地域経済分析システム「RESAS」の活用により官民の様々なデータをわかりやすく「見える化」することが出来ている、感染症による地域経済への影響をリアルタイムで可視化する「V-RESAS」というものが2020年6月より運用開始されておりますが、これについては感染症の影響の大きな業種を優先的に支援するなど、スピード感のある取り組みも可能となったというものであります。

3ページ目になりますが、具体的な取り組みをどう進めるかというところであります。1) 5Gなどの情報基盤の早期整備。地域発展に不可欠な基幹インフラ

である5Gの全国への速やかな展開が極めて重要であり、5Gの基地局や光ファイバなどICTインフラの条件不利地域への整備を促進することで、地方と都市部の格差が解消できる。それから、(2)として、デジタル分野の人材支援ということで、情報通信事業者などと連携したデジタル専門人材の派遣をすることで、地方創生のための人材基盤整備を進める。(3)として、データ活用基盤の整備ということで、Society5.0時代においてデータは新たな資源であることから、地域における最大のデータホルダー、データが蓄積されている地方公共団体によるデータ活用基盤の整備、さらにそのデータの公開。これは全地域での実施を目指すとされているようであり、それから、そのデータの活用による地域課題の解決や改善につなげることで、優良事例紹介、研修、政策立案ワークショップ、横展開などが期待されているものであります。スマート農林水産業やGIGAスクール、遠隔医療などについては、すでに手がついているところです。

これら地方におけるデジタル・トランスフォーメーションに向けた施策をまとめておりますが、これを受けて、自治体は何に取り組まなければならないかというのが、最後の資料になります。

自治体デジタル・トランスフォーメーション推進計画というものがあり、こちらは総務省が策定したものであります。各自治体が推進体制を構築し、重点取組事項をまとめ、さらにはその他の事業も取り組むとしているところであります。オープンデータの活用なども、これらのところで組み込まれておりますが、砂川市は現在のところ、「砂川市デジタル・トランスフォーメーション推進本部」を設置し、本部長を市長とした推進体制を構築しており、今後取り組みを進めるものであります。地方創生に係る施策としては、4番目の重点取組事項にある、マイナンバーカードの普及促進や行政手続のオンライン化、テレワークの推進、セキュリティ対策の徹底などが新たな施策として推進されるものであり、それについては総合戦略の令和4年度、早くても4年度になるかと思っておりますけれども、こういったものが新たに組み込まれまして、計画の変更がされていくのではないかと考えております。そういった時には、また皆様にお集まりいただき、内容の協議をしていただくというところになっております。

これまでの地方創生の取り組みと、特にコロナ禍において相当状況が変わってきてございますので、それらについてご紹介ということと、デジタル・トランスフォーメーションについては、これから頻繁に耳に入ることになろうかと思っておりますので、今回お時間をいただいております。ご紹介させていただきました。ありがとうございました。

【委員長】

ご苦勞様です。国から各自治体に、取り組みなさいというようなことが来ているということですね。こういったデジタル・トランスフォーメーションについても、来年度、令和4年度の総合戦略の中にはある程度反映されながら、次の計画変更に出てくるというようなことでもありますので、今は勉強というか、こういうものがあ

るんだよということで、非常に難しい時代になってきたんだなと思いますが、資料をいただいていますので、勉強してしっかり対応できるように委員会としてもしな
いといけないかなと思います。市の方からの報告でした。

このことについて、何かお聞きしたいことはありますか。なかなか難しい時代になってきています。皆さん頑張って学習しましょう。

6 その他

【委員長】

それでは、6番、全体のその他ということで、皆さんから最後に何かこの会議に
対してありますか。事務局から最後にお知らせはありますか。

ーなしー

【委員長】

何か問い合わせがあれば、事務局のところへ行って詳細について聞いていただく
ようお願いしたいと思います。

それでは、令和3年度第1回砂川市総合戦略推進委員会、これにて閉会とさせて
いただきます。大変ありがとうございました。

終 了